

ダニエル・カールの

消防団

第10回

長野県須坂市

たずねあるき

はじめに

今回の「消防団たずねあるき」は、長野県の須坂市にうかがいました。

長野県の北部にある市で、長野市などに隣接しており、リンゴやブドウなどの産地だということです。町並みがきれいに整備されている地区があって蔵のある風景が印象的です。

東京から新幹線で1時間30分ほどで長野へ出て、長野から長野電鉄で20～30分の距離です。新幹線ができてから本当に長野は近くなりましたね。

当日は天気にも恵まれ絶好の取材日和で暑いくらいでした。でも、空気がカラッとしていて風がさわやかです。信州はいいところですね。

須坂駅で消防本部の方にお出迎えをいただき対談場所に向かいます。さて、今日はどんなお話が聞けるのでしょうか。

ダニエル はじめまして、よろしくお願ひします。

依田団長 こちらこそよろしくお願ひします。遠いところをありがとうございます。須坂市は初めてですか。

ダニエル 以前、講演に来たことがあると思うのですが、その時は仕事の都合で時間が無く、講演をして帰っただけで地元の方とほとんどお話もできませんでした。ですから初めてのようものです。

依田団長 そうですか。今日はお時間の許す限り、消防団をはじめとする須坂の取材をしてください。

ダニエル ありがとうございます。

依田団長 ところで、ダニエルさんも今回の広報消防基金の取材は東日本大震災後、初めてですね。

ダニエル そうです。

依田団長 今回の大震災では、我々の仲間である消防団員も含めて多くの方が亡くなりましたので、対談を始める前に黙禱をささげたいと思います。

ダニエル わかりました。

依田団長 須坂市消防団では、黙禱の時ラッパを吹奏します。今日は、ラッパ長と音楽隊長が出席しておりますので彼らにラッパを吹奏してもらって黙禱したいと思います。

消防団たずねあるき



黙祷

ラッパ長と音楽隊長による見事な吹奏を聞きながら黙祷をささげました。やはり、誰もが今回の震災の被災地のことを気にかけていて、一日も早い復興を願っているのです。

須坂市消防団

それでは、いつものとおりお話をうかがっていきましょう。

ダニエル 須坂市消防団について教えてください。

依田団長 1本部、11分団で団員数は875名です。それと音楽隊がありまして、音楽隊は分団扱いで本部の所属になっています。

ダニエル 須坂市の人口はどれくらいですか。

依田団長 約52,000人です。

ダニエル そこに875名の消防団員さんがいらっしゃるわけですね。人口の割には多いほうですね。

依田団長 そうですね。大体60人に1人は消防団員という計算になりますから、多い方だと思います。

ダニエル こちらの消防団では、特にどのような災害に注意していますか。

依田団長 消防団ですから火災はもちろんですが、当市の地形的なことから水害の心配もあります。西側を千曲川が流れていてその標高は340mぐらいなのですが東側の山間部の標高は2,000m級です。東西わずか約16kmの距離の中にこれだけの標高差がある急峻な地形ですから水害がやはり気になります。

ダニエル 過去に水害はあったのですか。

依田団長 はい。昭和56年に東側の山間部で200mmの雨が降りまして、宇原川というほとんど名前も知られていない小さな川が溢れて土石流となって流れ下ってきました。その時は10名もの方が亡くなられ、当市の最近の災害としては最悪のものでした。

ダニエル そうですか。地震についてはどうですか。

依田団長 かつて、1,800年代に善光寺地震という地震があったということで、専門家が調べたところ800年に1回ぐらいの割合で地層が動くらしいとのこと。今すぐには起こらないだろうということですが、地震についてはいつ起こるかはわかりませんし、全ての活断層がわかっているわけではありませんから、やはり注意していかなければと感じています。

ダニエル なるほど、いろいろと幅広く対策を取らなければなりませんね。

依田団長 そうですね。消防団は地域防災の全般を担うわけですから、いろいろな面から防災について考えていかなければならないと思

消防団たずねあるき



前列左から依田団長、ダニエル、成田副団長、後列左から田中副団長、中澤分団長、波多ラッパ長、豊田音楽隊長

います。

ダニエル 消防団員の平均年齢はどれくらいですか。

依田団長 32.3歳です。

ダニエル 若いですね。

依田団長 平成21年度のデータでは、長野県が全国で一番若いのだそうで、県の平均が32.6歳ということです。

若い時には消防団員をやってもらうというのがこの地域では基本的な形になっています。大人になって最初に地域と係わるのは消防団員としてということです。

ダニエル 成人式というか元服式というか…

依田団長 そういったところですね。ただ、昔は本当に全員入るという形だったのですが、最近はなかなか難しいですね。

ダニエル 須坂市は長野市に近いですから、長野市に勤め先があるという方もいらっしゃる

でしょうね。

依田団長 多いですね。やはり長野市は大きな都市ですからね。当市の消防団でもサラリーマンが8割弱で長野市に勤めている団員がけっこういます。

ダニエル ある程度の距離を通勤していると消防団員になりたくてもなかなか時間が取れないということもあるでしょうね。

依田団長 おそらく、全国的にその問題があるのでしょうか。また、サラリーマンの団員が多いと昼間の火災に対しての人員が確保できないという問題もあります。

ダニエル なるほど、ところで団長として活動される中でどんなことに苦労がありますか。

依田団長 副団長や分団長が私を支えてくれて、よくやってくれているので苦労はないですね。

消防団たずねあるき



対談風景

ただ、地域とそこに住む人たちとの係わりについて考えています。昔は青年団や婦人会など地域住民による組織がいろいろありました。しかし、今は消防団ぐらいしかありません。

今回の震災の被災地でも、まとまりがあった地域では、皆で助け合って避難先での活動がうまくいったという話を聞いています。

自宅と職場を往復しているだけの生活であっても、何か起こった時には、その地域で助け合うことが必要になります。今、そういうことが我々に突きつけられていると思います。

消防団は、地域との係わりがあつての存在ですから、いざというときに助け合える地域コミュニティがなければ、団員も確保できなくなり地域を守れないということになってしまいます。それに関しては課題を感じています。

ダニエル 地域住民どうしの絆、地域住民と消防団との絆を太くしていくということですね。

依田団長 はい。それこそが消防団の存立基盤だと私は考えます。それをしっかりやらないと消防団の運営もかなり厳しくなると思いま

す。

ダニエル 皆さん地元との付き合いはそれなりにやってらっしゃると思うのですが、いかがでしょうか。

成田副団長 須坂市の中でもいろいろあると思います。私の地元は市の郊外ということもあってか、地域住民の方と話しにくいということはありません。ただ、市の中心部では、地域住民とのコミュニケーションが難しいということもあるかもしれません。

ダニエル 全国的にもその問題があるようですね。

団員確保のために、どのような活動をしてらっしゃいますか。

依田団長 「さくら」という広報紙を出しています。平成20年から年2回4月と10月に発行しています。消防団の活動を一般の方にも知っていただくために、市内の全戸に配布しています。

ダニエル 消防団員募集にも役立ちますね。

依田団長 そうですね。消防団の活動を知っていただくことが、入団促進につながればと思っています。

もうひとつ、各分団と分団が管轄する地域の代表の方々と懇談することで、コミュニケーションを図っています。お互いの要望を出し合い、連絡を密にして団員の勧誘などにもご協力いただいています。

ダニエル なるほど。大事なことですね。

依田団長 消防団というのは地域に根付いていないと活動がうまく行きませんから。

ダニエル 地元の方で地元を守るということですね。誰だって地域のために何かをしたいという気持ちを持っていると思いますが、広報

消防団たずねあるき



須坂市消防団広報紙「さくら」



広報紙「さくら」を見ながら

紙などで情報を伝えることで、より参加しやすくなるでしょうね。団員さんたちのコメントも載っていますね。

依田団長 各号に何人かずつ、消防団についての自分の考えをコメントしてもらっています。

成田副団長 須坂市消防団では、市のご協力で消防団員全員に「家族サービス券」というものを配布しています。

ダニエル それは何ですか。

成田副団長 市の動物園に無料で入場できる券です。

依田団長 須坂市の施設ですから、団員とその家族は無料で入場できます。

ダニエル それはいいですね。

田中副団長 この動物園はカンガルーの「ハッチ」がいた動物園なのです。サンドバッグで遊ぶのが好きで有名になりました。

ダニエル はいはい、新聞で見たことがあります。

田中副団長 テレビ局の取材もよく来ていました。

ダニエル こういう優遇があれば、子供も

喜ぶでしょう。団員さんたちもお父さんとして、あるいはお母さんとしてうれしいでしょうね。サービス券に期限はあるのですか。

依田団長 1年間有効のサービス券です。

ダニエル 消防団員である限りは毎年もらえるのですか。

依田団長 はい、そうです。

ダニエル いろいろ良い活動をされていて、市の協力もあるわけですから、もっとどんどんPRして行きましょう。



家族サービス券を見ながら

消防団たずねあるき

ラッパ隊と音楽隊

こちらの消防団ではラッパ隊と音楽隊があるのです。ひとつの隊にふたつの呼び名があるのかと思ったら、そうではなかったんです。そして、それぞれに大活躍をされています。

ダニエル ラッパ隊と音楽隊というのはどう違うのですか。

依田団長 音楽隊はいわゆる吹奏楽を演奏するひとつの隊として組織されています。ラッパ隊は消防団に37ある各部に数名のラッパ手がいるという形になっています。

ダニエル 全国的にも珍しいのではないのでしょうか。

依田団長 そのようですね。

ダニエル なぜ、須坂市消防団はそんなにミュージカルな消防団になったのでしょうか。

一同 (笑)

成田副団長 ラッパは通信手段のひとつなの

です。無線機が無い時にはラッパで知らせるのです。

ダニエル なるほど。信号ですね。

田中副団長 当市の場合、先ほどの団長の話にありましたように山間部があります。山間部に入ると無線が使えない場所があるのです。そういう場合には、ラッパで中継をしながら、例えば「放水始め」、「放水やめ」といった指示を伝えるわけです。

ダニエル 騎兵隊みたいですね。地形的なことがあってラッパを取り入れているんですね。スイスの山の大きなホルンみたいですね。

依田団長 長野県は全体的にラッパを取り入れている消防団が多く、ラッパの県大会もあります。

ダニエル 珍しいですね。一度、じっくり聴いてみたいですね。

依田団長 実は、須坂のラッパというのは、県でトップだと言われています。この部屋にあるまといや表彰状も、多くはラッパの大会でいただいたものです。当市のラッパ隊は、2回に1回県大会に出場しているのですが、出場した大会では連続9回優勝しています。

ダニエル どのラッパ隊がライバルですか。

成田副団長 最近は長野県内中の消防団が力をつけてきているのでみんながライバルです。

ダニエル なぜ、毎回出場しないのですか。

依田団長 県大会には地区協会代表として出場しています。同じ地区協会内にはラッパ隊のある消防団が他にもありますので、彼らにもがんばってもらって、地区協会全体がレベルアップすることを考え2回に1回の出場にしています。



ラッパ隊と音楽隊のDVDを見ながら

消防団たずねあるき

ダニエル そうですか。これは自慢できることですね。

波多ラッパ長 これをどうぞ。お時間のあるときに聴いてください。

ダニエル これは何ですか。

波多ラッパ長 ラッパの大会と音楽隊の定期演奏会のDVDです。

ダニエル CDまで出してらっしゃるんですか。

依田団長 売っているわけではありませんが。

一同 (笑)

ダニエル すごいですね。

依田団長 仲間内で撮影をして作っています。

ダニエル ありがとうございます。家に帰ってからじっくり聴かせていただきます。

音楽隊では女性消防団員が活躍していらっしゃるようですね。

依田団長 はい。音楽隊員32名のうち24名が女性です。

ダニエル いいPRになりますね。どんな活動をしてらっしゃるのですか。

豊田音楽隊長 毎年11月に定期演奏会を市内のホールで開催しています。一般のお客さんに来ていただいて、チャリティーコンサートの形をとっています。入場料はいただかないのですが、募金箱を置いて皆さんから募金をいただいています。集まった募金は社会福祉協議会さんにお渡しして福祉に役立てていただいています。

ダニエル なるほど。素晴らしい活動ですね。

田中副団長 市内のお祭りやイベントでも、ラッパ隊や音楽隊に出演依頼があります。けっこう忙しいですね。

豊田音楽隊長 そうですね。練習も毎週日曜日の夜2～3時間ほど消防本部の3階でやっています。

ダニエル 毎週となると、なかなか大変ですね。オラも全国各地で講演をしています、たまに消防団の音楽隊の方々が講演の開始前に2、3曲演奏してくれることがあります。それで人を集めて講演をするわけです。演奏が無かったら半分くらいしか人が集まらないかもしれません。

一同 (笑)

依田団長 そんなことは無いでしょう。(笑)

ダニエル いずれにしても、音楽っていいですよね。元気が出るし、音楽があるとイベントが華やかになりますね。

ラッパ隊や音楽隊が活躍することで、コミュニティの精神が湧いて来るでしょう。きっと、それもあって、団員数も多く、年齢的にも若い消防団が保たれているのでしょう。

その他に何かアピールする場面はありますか。

成田副団長 火の用心をテーマにした音楽隊のパレードがあります。

ダニエル マーチングバンドみたいな感じですか。

豊田音楽隊長 そうですね。音楽隊は予防消防を市民の方に広報するというのがメインの活動です。最近では、パレードをしながら住宅火災警報機の重要性について説明したパンフレットを配布しました。イベントに呼ばれた場合でも、やはり予防消防の広報を第一に活動しています。

ダニエル いろいろとやってらっしゃいますね。

消防団たずねあるき

波多ラッパ長 私たちラッパ隊もやっています。春と秋の空気が乾燥している時期に「火災に気をつけてください」ということで、ラッパ手に集まってもらって、ラッパを吹きながら市内を練り歩くラッパパレードという広報活動をしています。

成田副団長 なかなか迫力がありますよ。

ダニエル そうでしょうね。

波多ラッパ長 3時間ほどかけて市内を回ります。

ダニエル それはすごいですね。本格的なパレードですね。

波多ラッパ長 沿道の皆さんが「がんばって」と声をかけてくれます。それが励みになりますし、消防団のPRにもなります。

ダニエル 子供さんたちも喜ぶでしょう。

波多ラッパ長 そうですね。「ラッパが鳴っているから火災が起こりやすい時期なんだな」ということが市民に浸透しています。

ダニエル その時はラッパ隊だけでパレードをするのですか。

波多ラッパ長 春と秋はそうですね。その他いろいろなメンバー構成でパレードをすることもあります。

成田副団長 出初式などもラッパ隊が盛り上げています。

田中副団長 長野には「御柱」という祭りがあります。

ダニエル はい知っています。

田中副団長 この地域でも行われるのですが、その際にもラッパ隊の演奏で大いに盛り上がります。

ダニエル 大活躍ですね。

依田団長 ラッパが地域に根付いていますからね。

ダニエル 人々にPRするためには、とてもいいアイテムですね。

依田団長 平成20年の3月に自治体消防60周年の記念式典が日本武道館で行われまして、長野県の消防団にラッパ隊という活動があるということで、お披露目をさせていただきました。

ダニエル 日本武道館ということは相当な人数が集まっていたでしょうね。緊張したのではないですか。

波多ラッパ長 皆さんいくつもの大会に出場している方たちですから、緊張ということは無かったようです。むしろ、スポットライトを浴びてラッパを吹くことが気持ち良かったと言っていました。私たちにとっても一生の思い出です。

依田団長 その時のラッパ吹奏は、とても高い評価をいただきました。

成田副団長 他の県からも問い合わせがあり、視察に来られたり、教えて欲しいと言われたりしました。

本来、消防団ではポンプが主役なのですが、そちらはまだまだ努力が必要なので…

依田団長 がんばってはいるのですが、県内にはまだまだレベルの高い消防団がたくさんあります。

ダニエル ポンプの訓練も一生懸命にされていますよね。

依田団長 もちろんやっています。来週、須坂市の大会があります。

ダニエル もうそんな季節ですか。

依田団長 須坂市の場合は6月の2週目に分団対抗でポンプ操法とラッパ操法の大会を実施しています。

こちらの中澤分団長の率いる第8分団が、昨年度、ポンプとラッパの両方の部門で優勝しま

消防団たずねあるき

した。

ダニエル 両方とも優勝というのはすごいですね。今年はいかがですか。いけそうですか。

中澤分団長 やってみたいとわかりませんが、がんばります。

ダニエル そんなことを言って、実は猛特訓をしているのではないですか。

一同 (笑)

ダニエル 訓練はやはり皆が集まりやすい週末などに行うわけですか。

依田団長 大会前は集中的に行いますけれども、それ以外の時は週末あるいは夜間に訓練することが多いですね。皆仕事がありますからね。

ダニエル 世田谷区の消防団も夜9時ごろに訓練をしていますね。時々見かけます。

依田団長 夜か早朝ですね。今は集中的に訓練をする時期なので、朝の5時頃から訓練をしています。準備その他がありますから皆は4時起きですね。

ダニエル 大変ですね。仕事に行く前に訓練をするわけですね。4時起きとなるとご家族、特に奥さんの理解が必要ですね。

消防団員の皆さんとお話すると、やはり家族の理解、職場の理解、地域の理解といったことがネックだということをよく聞きます。

それでまた近々須坂市の大会があるんですね。いつですか。

中澤分団長 次の日曜日です。

ダニエル えっそうなんですか。それじゃここに来ている場合ではないんじゃないですか。

一同 (笑)

中澤分団長 まあ、昼間は仕事ですから。(笑)



団長の説明を聞きながら

S-KYT研修

ここで、恒例のS-KYT研修について、お話しをうかがいましょう。

ダニエル 皆さんS-KYT研修を受けられましたよね。いつから始めたのですか。

依田団長 平成18年度からですね。消防本部の方からS-KYT研修を紹介され、良い内容の研修だと思い開催することにしました。現在は隔年で開催しています。

ダニエル 団員数が多いですから大変ですね。

依田団長 幹部団員を50人くらいずつ集めて開催しています。

ダニエル でも、研修を受けた人が自分の分団に戻って教えたりしますよね。

成田副団長 そうですね。それがありますから、だいぶ浸透はしていると思います。

田中副団長 危険予知というのは特に幹部に

消防団たずねあるき

求められることだと思います。幹部は「それ行け」ばかりではなく、状況を判断した上でどういう戦術をとるのか考えて行動しなければなりません。団員はどうしても現場で熱くなってしまいますから、幹部がそれをコントロールする必要があります。そういう意味からも、特に幹部が受けるべき研修だと思います。

ダニエル 人によっていろいろな性格がありますからね。S-KYT研修では危険を予知することを学ぶわけですが、研修を受ける前と受けた後でずいぶん危険予知に関する考えが違って来るとい話をよく聞きますが、皆さんもそうでしたか。

成田副団長 そうですね。違ってきますね。

田中副団長 指差し呼称をすると危険のポイントが頭に入りますね。

依田団長 消防団活動をしているイラストからどんな危険があるかを考え、それを班単位で皆で話し合うところが良いですね。いろいろな人の意見を聞く事で、自分では気づかない危険を教えられたり、多角的な視野で危険をとらえることができる良い訓練だと思います。

ダニエル 全国どこへ行ってもこの研修を受けた方は、すごく感動されているようです。

依田団長 須坂ではもうすでに4回実施しています。

ダニエル 団長ご自身も受講されているわけですか。

依田団長 私は団長という立場もあって3回受講しています。

ダニエル 毎回、何か得ることがありますか。

依田団長 はい。まず、使用するイラストシートによって活動内容が違いますから、当然、

想定される危険が違います。また、班編成のメンバーが違いますから、危険を指摘する視点も違ってきます。ですから、受けた回数分だけ、より多角的な視点が得られます。

田中副団長 最初は、正直申し上げて面倒だなと思ったのですが、皆でワイワイやっているうちにだんだん話がまとまって行って、最終的には「なるほど」という事故対策を得ることができました。

ダニエル そうですか。これからもS-KYT研修で学んだことを活かして、安全に活動してください。

須坂市消防団員として

そうそう忘れていました。皆さんが消防団員になったいきさつをお聞きしなければ。

ダニエル 皆さん消防団幹部の方をつかまえて、今さら何ですが、消防団に入団した当時のことを教えてください。個人的なことで結構ですからお1人ずつお願いします。では、中澤分団長からどうぞ。

中澤分団長 朝、起きましたら玄関にハッピーが置いてありました。母が当時の地元の部長から受け取ったということで、集合する日付と時間を言われました。

一同 (笑)

ダニエル ご本人の承諾は関係なしですか。

中澤分団長 はい。昔はそういうケースが多かったです。

ダニエル 当時、おいくつだったのですか。

中澤分団長 20歳でした。

ダニエル それこそ成人式ですね。入団し

消防団たずねあるき

て良かったですか。

中澤分団長 とても面白いです。

ダニエル ハッピーをポンと渡して「何月何日にここへ来い」と…、でも何かかっこいいですね。

次にラッパ長、お願いします。

波多ラッパ長 私は実家が商売をしておりまして、お得意さんを買っていただいた品物をお届けして代金をいただいたときに「ちょっと話があるんだけど」と言われ「消防やって」と言われました。たった今、目の前で代金をいただいて「ありがとうございました」と言った手前「はい」としか言えませんでした。

一同 (笑)

ダニエル 確かに断ったら代金をもらいにくいですね。

それでは音楽隊長、お願いします。

豊田音楽隊長 私の場合、父が分団長をやっていたこともあって、子供の頃から消防団というものを見て育っていましたので、社会に出たら消防団に入るものだと思ってはいました。

ちょっと中澤分団長の場合と似ているところがあって、学校を卒業した後、ある日玄関にハッピーとラッパが置いてありました。

一同 (笑)

豊田音楽隊長 もともと吹奏楽をやっていたので「こいつならラッパが吹けるだろう」と思われたようです。そして、父に「何月何日にどこどこへ行け」と言われました。

ダニエル ラッパを吹いたことはあったのですか。

豊田音楽隊長 消防ラッパは吹いたことがありませんでした。

ダニエル 最初は大変でしたか。

豊田音楽隊長 大変でした。今も、ちょっと大変なのですが…

一同 (笑)

ダニエル でも、お父さんも消防団員だったということで、家族の伝統というか…

豊田音楽隊長 そうですね。父は消防団活動で当たり前のように家にいませんでしたから、小さいころには父の職業は消防なんだと思っていたときもありました。

ダニエル なるほど。

では、田中副団長にお願いします。

田中副団長 私はもともと青果市場に勤めていまして、朝がとても早かったので、消防団はお断りしていました。その後、家業を継ぐことになり、ある集まりで「今度、消防のことで行くからな」と言われ入団することになりました。我々の時代は自営業なら消防団に入るのは当たり前前の時代でした。

ダニエル 自営業になってからの方が、自分のスケジュールの調整はしやすいからですかね。

田中副団長 そうですね。それまで入団をお断りしていたのも、早朝の活動に出動できないからであって、そういう状態で入団して迷惑をかけたくないと考えたからでした。

ダニエル 何歳で入団されたのですか。

田中副団長 24歳の時です。当時としては遅い入団でした。

ダニエル やはり、20歳くらいで入団する人が多いのですか。

依田団長 以前はそうでした。今は、だんだん遅くはなっていますね。30歳近くで入団するケースもあります。

ダニエル そうですか。

消防団たずねあるき

それでは成田副団長をお願いします。

成田副団長 私の場合もハッピーが置いてありました。それと、父が分団長をしていましたので、子供の頃からいずれ入団するものだと思っていました。

消防団の思い出として、小学生の頃、牛乳配達をしていた時のことがあります。小学校のグラウンドで消防団が操法の訓練をしていて、1週間、毎日30本ずつ牛乳を注文してくれたのです。重たかったですがお金になるので、がんばって配達しました。そんなふうに、子供の頃から消防団を身近に感じていました。

ダニエル 小さい頃から消防団の活躍ぶりを見ていたのですね。

成田副団長 はい。当時、消防団の訓練を見て「面白そうだな」と思っていました。

ダニエル 消防団を見ながら育って来ると、入団することが自然なことなのでしょうね。

成田副団長 そうですね。全然抵抗はありませんでした。実は、私の息子も今年入団させていただきました。

ダニエル そうですか。では、息子さんは三代目ですね。

成田副団長 はい。そういうことになります。

依田団長 親子二代で同時に現役の消防団員というのなかなか珍しいことです。

ダニエル 初代のおじいさんも鼻が高いでしょうね。息子さんもお孫さんも消防団員なわけですから。うれしいと思いますよ。

では、団長をお願いします。

依田団長 私もやはり、家に帰るとハッピーが玄関に置いてありました。どうやら父が受け取ったようで「お前もいよいよ消防団員だ」と言われました。

私の場合は、同級生も下級生もすでに入団していて「なぜ、自分のところには勧誘が無いんだろう」と思っていました。

ダニエル 「待ってました！」という感じですね。

依田団長 はい。当時はたくさん入団者がいまして、私の住んでいた町内会では三つの地区に分けて勧誘しており、多少のズレが生じて私の入団が遅くなったようです。入団したのは25歳の時で町内会に25名の消防団員がいたのですが、なり手が多く、5年で全ての人員が入れ替わる形でした。

ダニエル むしろ、競争が激しかったのですね。昭和40年代のことですか。

依田団長 いえ、私が入団したのは昭和55年のことでした。

ダニエル 昭和50年代でもそういう状況だったのですね。

依田団長 はい。私の住んでいた地域は農業が産業の中心でした。当時はリンゴやブドウの栽培がとても儲かった時代で、それまで会社勤めをしていた人や都会に出ていた人も戻ってきて果樹栽培を始めたので、若い世代が数多くいたのです。

ダニエル ベビーブームのような…

依田団長 そうですね。そういう波が来ていた時でしたね。

ダニエル その後は、経済状況の変化などでだんだん落ち着いて…

依田団長 そうですね。今、我々の子供の世代が入団し始めているのですが、我々より少し上の世代のお子さんたちは都会に出たまま帰ってこない状況で、若い人が少なく、ちょっとさびしいですね。

消防団たずねあるき

ダニエル そうですか。だいたい皆さんハッピーが玄関に置いてあって入団したということですね。

波多ラッパ長 断れなかったですね。

依田団長 当時はそういう感覚ですよ。

波多ラッパ長 「イエス」と「はい」以外は言えませんでした。

一同 (笑)

ダニエル ところで置いてあったハッピーというのは新品でしたか。

一同 いいえ。よれよれのハッピーでした。

ダニエル でも、それは先輩方が使われた伝統ある物ですね。

依田団長 そうですね。今、消防団の被服は比較的充実していますからそういうことはありませんが。

最後に、これからのことについてうかがいましょう。

ダニエル それでは、須坂市消防団の今後の抱負、目標などについて、団長をお願いします。

依田団長 はい。先ほどからラッパの話がたくさん出ていて、実際、須坂市消防団はラッパの部門では結果を残していますが、ポンプの方は今ひとつ結果が出ていません。そういうこともあってか、同じ消防団の中でもラッパ手は元気が良いのですが、ポンプを担当する団員がもうひとつ生き生きしていないと感ずます。ですから、ポンプの技術のレベルを上げて、ポンプを担当している団員にもっと誇りと自信を持って欲しいと思います。

それから、先ほども言いましたが、やはり地域との関係ですね。地域の中での消防団の位置づけというものをより強くして、地域住民と消防団がより近い関係になったらいいなと思います。それこそが、我々消防団のこれからを作っていく基礎になると思います。

地域の人に消防団を支えていただいて、地域の期待や要望に消防団が応えて行くということです。地域住民も消防団員もメンバーは入れ替わるでしょうが、それを維持し続けることが重要だと考えています。

ダニエル どうもありがとうございました。

ここで時間が来てしまいました。

楽しいお話をもっともっとお聞きしたいところですが、市の消防団の大会直前ということで、ここらで失礼することにいたします。お忙しい時に、貴重なお時間をいただきました。

多角的な消防団

団長のお話にありましたが、須坂市消防団では、もっとポンプの実力を上げて行きたいということでした。

また、ラッパ手や音楽隊に所属している団員の皆さんもポンプや機械器具の取扱い訓練に取り組んでいらっしゃるそうで、団長によれば「須坂の消防団のハッピーを着ている以上、消防団本来の活動ができなければならない」とのことでした。音楽隊の女性消防団員の方々も防火訪問や救命講習などでご活躍とのことでした。

ラッパ隊や音楽隊など、全国的には珍しい隊を組織している消防団活動に多角的なアプローチをしている消防団ですから、これでポンプの

消防団たずねあるき

実力がさらに向上すれば、とても総合力の高い消防団ということになりますね。そして、そうなることは、団長が課題とおっしゃっていた地域住民との関係強化に必ずプラスに作用することだと思います。

終わりに

須坂市消防団は、ラッパ隊や音楽隊などを組織し、さまざまな活動をされています。また、それに満足することなくポンプ操法の向上を目指しています。ある意味、欲張りな消防団ですが、もっともっと欲張って欲しいと思います。

須坂市消防団の皆さん、これからもポンプにラッパに音楽に幅広くご活躍を！



対談風景2